

基本目標	施策の方向性	主な取組	事業数	所管評価				進行管理(令和6年度)	No.
				A評価	B評価	C評価	評価なし		
1. 男女共同参画社会の 実現に向けた教育・啓発	(1)家庭・地域へ向けて の取組	①男女共同参画センターを中心とした取組	1	1	0	0	0	オンラインの活用や、市民・庁内他課との協働・共催により、男女共同参画に関するテーマの講座等を実施した結果、講座の参加人数は延べ650人となり、令和9年度目標の500人を達成することができた。	1
		②防災・減災への取組	2	0	2	0	0	防災総合訓練では、ブースを出展し、男女共同参画の視点からの防災について啓発を行うことができた。引き続き、市民や職員向けの講座等を実施する上で更に意識啓発を充実させるため、関係課と連携し、効果的な啓発方法を検討していく必要がある。	2・3
	(2)市職員への啓発や 学校園等での学習	①市職員の意識醸成【重点取組】	4	3	1	0	0	男性職員への育児休業制度の説明、教職員向けに校務支援システムを活用した情報発信及び、市管理職や教職員を対象とした研修等、周知啓発を行う機会を多く持つことができた。引き続き、研修や啓発資料の配布を行いながら、働きやすい職場環境と気軽に相談できる体制づくりを行う。	4～7
		②多様な選択を可能とする学校園等での学習機会の提供	2	2	0	0	0		8・9
	小 計		9	6	3	0	0		
2. 安心して生活できる 環境の整備	(1)生涯を通じた心身 の健康づくりの促進	①年齢に応じた性教育の充実	2	2	0	0	0	性教育、健康づくりに関する講座を関係課間で連携して実施できたが、テーマによっては集客に苦労する講座もあった。参加者を増やすために、講座の実施形態や効果的な周知方法を検討しながら実施していく。 悩み相談事業では、各課で相談者に寄り添った支援を行い、必要に応じて相談先の情報提供や連携を行った。必要な方へ情報が届くよう、相談事業の周知を市民及び関係課へ継続して行う。	10・11
		②ライフステージに応じた健康づくり	3	2	1	0	0		12～14
		③悩み相談事業	4	4	0	0	0		15～18
	(2)あらゆる暴力の根絶 ※第3次芦屋市DV対策 基本計画	①DV被害者支援	14	14	0	0	0	困難な問題を抱える女性への支援に関する法律に基づき、新たに「芦屋市女性サポート相談室」の専用電話を開設した。また、DV相談室と関係機関で連携し、DV被害者が安全で安心した生活を送れるよう、必要に応じた情報提供や支援を行った。 庁内職員に対しては、DVについての理解を深められるよう関係機関を含む窓口職員を対象とした研修を実施した。引き続き、DV相談室の周知カードやシールを活用し、DV相談室の認知度を高める。	19～32
		②DVと性暴力防止のための取組 【重点取組】	2	2	0	0	0		33・34
	小 計		25	24	1	0	0		
3. 女性の活躍とワーク ・ライフ・バランスの推進 ※第3次芦屋市女性活躍 推進計画	(1)女性へのエンパワメント 推進	①女性が望む活躍への支援	2	2	0	0	0	女性のための起業支援や、男性の家事・育児への関わりを増やすための講座等、幅広いテーマで女性活躍推進事業を多数実施し、女性が望む活躍への支援を行った。 令和6年4月1日における市附属機関等における女性委員割合は39.5%で、昨年度の36.9%から増加したが、令和9年度目標に達していないため、引き続き、庁内の電子掲示板等で繰り返し女性委員の積極的な登用について周知するとともに、達成できていない部署には、個別に見直しを図るよう求める。	35・36
		②性別役割の偏り解消のための取組	3	2	1	0	0		37～39
	(2)ワーク・ライフ・バランス 実現のための支援	①子育て・介護等の支援	6	6	0	0	0	子育てアプリを活用するなどして、子育て家庭に有意義な情報提供をすることができた。高齢者の支援については、既存の4箇所の高齢者総合相談窓口に加えて、新たに1箇所を設置し、本人や家族の支援ができた。 男性の家庭生活での活躍推進のための講座・事業を多数実施し、参加者からも好評で、事業に参加する父親同士の交流も継続的に促すことができた。 働き方改革の推進では、職員向けの業務改善やハラスメントに関する研修のほか、商工会や兵庫県等と共催にてワーク・ライフ・バランスの促進啓発に取り組んだ。	40～45
		②男性の家庭生活での活躍推進 【重点取組】	1	1	0	0	0		46
		③働き方改革の推進	5	3	2	0	0		47～51
	小 計		17	14	3	0	0		
合 計			51	44	7	0	0		
(前 年 度)			51	40	11	0	0		

【評価基準】
A評価(A)…目標を達成できたもの
B評価(B)…目標は達成していないが、目標に対して進捗があったもの又は事業等を実施したもの
C評価(C)…目標を達成しておらず、目標に対して進捗がみられないもの又は事業等を実施しなかったもの
評価なし(－)…事業等を実施する必要がなかったものなどA～Cに該当しないもの